

---

# 氷輪の夢

切香

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

氷輪の夢

### 【Nコード】

N3915D

### 【作者名】

切香

### 【あらすじ】

月光の深夜、雛森を日番谷が訪れ涙を流す。それを見守る雛森の想い。ダーク…でもなく、シユール。

落ち着かない。

あたしは静まり返り、灯りの落とした部屋の中で布団に入りながらも、目が冴えて眠れなかった。

障子から明るい満月の光が透けているためだろうか。

障子に映った、庭の樹木の葉が影となって揺れる。

ざあ・・・と音がする。

ぎい、ぎい・・・壊れかけた塀の金具が風に弄られているのか、定期的にきしむ音が闇の中にはつきりと響いていた。

このまま部屋に差し込む影が躍りだしてもおかしくないみたいに、静寂の中で粒子が騒ぎ出す。

障子を隔てた外は、嵐だ。

満月がくつきり浮かび、やや風が強いだけの夜だけど、間違いなく何かが騒いでいる。

眠れない・・・

あたしはあきらめて、布団の中で目を見開いた。

障子に、間違えようのない影がくつきりと浮かぶ。

さらりと。

あつけないくらい静かに、障子が開けられた。

同時に、月光の粒子が、どっと部屋の中になだれこんだような錯覚を覚えた。

それと共に、部屋の中に流れ込むように、漆黒の影が音もなく畳を

踏んだ。

あたしは布団の上で上半身を起こした。  
影は無言である。

あたしは声をかけた。

「・・・日番谷くん。どうしたの？」

日番谷くんは、あたしの呼びかけにも無言で、あたしのすぐ前まで歩み寄り、その場で片膝をついた。

黒い着物がさらりと衣擦れの音を立てた。

髪も肌も白いこの子が、こんなに黒い服をまとうなんて、初めはずっと違和感だったけど。

今はそれなりに、似合って見えるから不思議だ。

やはり、この子もとどまらぬ流れの中にいる。

「・・・日番谷・・・」

顔を伏せたままの日番谷くんに、再び声を掛けたとき。

その体がぐらりと揺らいた。

そのままあたしのほうに倒れ掛かってくる。

あたしは慌ててその体をうけとめた。

そして、全身で感じる。

どれほど長い間、外にいたんだろう。

触れた体の冷たさが、あたしのぬくもりを奪っていく。  
でもこの子が震えているのは、外気のせいじゃない。

「う・・・」

かすかにうめき声がもれた。

あたしの肩に顔を押し付けて、抑えても抑えてもこみ上げてくる嗚咽の波を、体の奥に押し返そうとしている。  
泣いてもいい、と軽々しくは言えなかった。  
あたしは、助けを求めるようにしがみついてくる、からだの震えを全身で受け止める。

この子は、越えてしまったんだ。

昨日までの日番谷くんの心が許していなかった「過去」という境界を、この一晩でまたいだのだろう。

この年齢の少年としては誰よりも強く、誰よりも強固な意志をもったこの子を、ここまで打ちのめすほどの、過去。

ぐつと胸が苦しくなる。

あたしよりひと回り小さい背中に手をまわしながら思う。

この体は、あたしの知らないどれくらいの辛い体験を、思いを刻み込んできたのだろうか。

あたしが、この子の隣に立って戦えるのは、もうそう長い間ではないだろう。

この子はあたしよりも、ずっと遠くへ、高みへたどり着くよう宿命付けられているはずだ。

この子があたしをこんな風に心のよりどころにしてくれるのも、今だけかもしれない。

あたしよりも大切な誰かを、この子はやがて見つけてしまうだろう。人が前に進むべき生き物である以上、そうでなくてはならないのだ。

「シロちゃん……」

それでも、だからこそこのときが、一瞬強く輝くのだろう。それはどこか、断末魔に似ている。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

氷輪丸の「氷輪」には、冬の空に冴え冴えと輝く月、という意味があるそうです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3915d/>

---

氷輪の夢

2010年10月28日06時54分発行